芸　　術

1　芸術科の教育課程の編成

芸術科においては、「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「工芸Ⅰ」及び「書道Ⅰ」のうちから１科目を必履修科目とし、その単位数は標準単位数を下らないものとしている。

また、教育課程の編成に当たっては、各学校において、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、個性を生かす教育の充実に努めることが求められており、多様な各教科・科目を設け生徒が自由に選択履修できるよう配慮することとしている。このため、ⅡやⅢを付した科目を選択履修とするほか、１年次に音楽に関する科目を履修した生徒が２年次に美術に関する科目を履修したり、同一年次に工芸に関する科目と書道に関する科目を並行履修したりするなど、生徒の希望を最大限に生かすことができるよう工夫することも必要である。

このように、各学校の工夫によって多様な科目を設定し、生徒一人一人が個性に応じてそれぞれの能力を伸ばすことができる教育課程を編成することが大切である。

2　音楽の指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成

「音楽Ⅰ」では、「音楽文化についての理解を深める」が新たに目標に加えられたことを踏まえ、文化的・歴史的背景などの広い視野で音楽に目を向け、音楽文化の理解を深められるよう配慮する必要がある。また、表現活動においても鑑賞活動においても、音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する過程を大切にして、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばしていく必要がある。

「音楽Ⅱ」では、生徒自ら感性を働かせて思考・判断し、技能を高め、音楽を表現する場や、生徒自らが主体的に音楽にかかわる鑑賞の学習を展開し、根拠をもって自分なりに批評する場を設けることが重要である。

「音楽Ⅲ」では、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を深めること、それぞれの個性に応じた豊かな音楽観を形成できるようにすることが大切である。

(2) 内容の取扱い

ア　「音楽Ⅰ」は、「Ａ表現」の「(1)歌唱」、「(2)器楽」、「(3)創作」及び「Ｂ鑑賞」を全て扱うこと。「音楽Ⅱ」は、「Ａ表現」の「(1)歌唱」、「(2)器楽」又は「(3)創作」のうち一つ以上と「Ｂ鑑賞」を選択して扱うこと。「音楽Ⅲ」は、「Ａ表現」の「(1)歌唱」、「(2)器楽」、「(3)創作」又は「Ｂ鑑賞」のうち一つ以上を選択して扱い、その際、我が国や郷土の伝統音楽を含めるようにすること。

イ　「音楽Ⅰ」の「Ａ表現」の「(1)歌唱」、「(2)器楽」では、独唱や独奏、小アンサンブルを含めて扱うことができるようにしたこと。

ウ　「音楽Ⅰ」の全ての領域で、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌ったり、演奏したりすることと関連付けて指導すること。

エ　「音楽Ⅰ」の「Ｂ鑑賞」では、楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動など

を取り入れるようにすること。

オ　「音楽Ⅰ」の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の教材については、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽の中から幅広く扱うこと。

カ　知的財産権などについて配慮し、著作物等を尊重する態度の形成を図ること。

(3) 「音楽Ⅰ」の指導計画（例）

学期	月	時数	題材	指導内容	教材等	表現												鑑賞				評価の観点			
						歌唱				器楽				創作											
						ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
前期		1	ガイダンス	授業の内容の確認	シラバス																	○			
	4	1	校歌	豊かな声で歌う	校歌	○	○		○													○	○	○	
	5	6	ミュージカルに親しむ	作品の社会的背景や音楽的価値を理解	ウエストサイド物語													○	○	○		○			○
	6	8	合唱の魅力	発声の工夫、曲全体の構造を把握、鑑賞	大切なもの	○	○	○	○									○	○			○	○	○	
		2	ポップスの歴史	ジャズやロックの歴史を理解	枯葉、天国への階段													○	○	○		○			○
	7	8	歌曲に挑戦	イタリア語やドイツ語の発音と発声法	Caro mio ben野ばら	○	○	○	○													○	○	○	
	8	8	アンサンブル法	基本的な奏法を練習	放課後の音楽室					○	○	○	○									○	○	○	
後期	9	8	ギター弾語り	簡単なコードを練習	なごり雪	○	○	○	○	○	○	○	○									○	○	○	
	10	8	ヨーロッパの音楽の歴史	時代ごとの音楽のスタイル、特徴、社会的背景を理解	管弦楽組曲第2番(J.S.バッハ)ほか													○	○	○		○			○
	11	8	作曲してみよう	コード進行、動機、旋律を作曲	卒業生の作品など									○	○	○	○					○	○	○	
	12 1	8	伝統音楽に触れる	文化等の奏法を学ぶ	さくらさくら DVD					○	○	○	○								○	○	○	○	○
	2 3	4	音楽の力とは	社会的背景や音楽的価値を理解	イマジン													○	○	○		○			○

〔表現・歌唱〕
ア　曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージを持って歌うこと。
イ　曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。
ウ　様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。
エ　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。

〔表現・器楽〕
ア　曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏すること。
イ　楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。
ウ　様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。
エ　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること。

〔表現・創作〕
ア　音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること。
イ　音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。
ウ　音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって変奏や編曲をすること。
エ　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくること。

〔鑑賞〕
ア　声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とかかわりを感じ取って鑑賞すること。
イ　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。
ウ　楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。
エ　我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。

評価の観点
ア　音楽への関心・意欲・態度　　イ　音楽表現の創意工夫　　ウ　音楽表現の技能　　エ　鑑賞の能力

(4)言語活動を充実する学習指導の実践例

次は、音楽における言語活動として示されている「楽曲や演奏に対して根拠をもって批評する活動」の実践例である。音楽における批評活動は、音楽のよさや美しさを、言葉で表現し他者に伝える活動である。指導の際は、楽曲を形づくる要素を知覚するとともに、それらが生み出すイメージや雰囲気を感受したり、それらを関連付ける学習を基盤としながら、楽曲固有のよさや美しさについて、根拠をもって自分なりの価値判断をできるようにすることが大切である。

このように、批評活動は漠然とした感想を述べたり、単なる感想文を書いたりすることとは異なる創造的な活動であり、この活動を取り入れることは、音楽Ⅰの鑑賞の目標である「創造的な鑑賞の能力を伸ばす」ことにつながる。

■ 科目　　音楽Ⅰ
■ 題材名　　「ボレロ」の魅力に迫る（モーリス・ラヴェル　作曲）
■ 題材の目標　「ボレロ」を構成する特徴的な要素を知覚し、その醸し出す特質や雰囲気を感受することにより楽曲のよさを深く味わうことができる。
■ 学習内容（全２時間）
　第１時　・楽曲が作曲された背景を理解するとともに、楽曲を構成する特徴的な要素について考える。
　第２時　・楽曲を構成する要素が、どのような特質や雰囲気を醸し出しているか考える。
　・楽曲の魅力について批評文にし、発表する。　言語活動
■ 学習の過程

	生徒の学習活動	指導の観点・留意事項	評価の観点
第1時	1 本時の目標の理解 2 ボレロが作曲された背景について理解する。 3 ボレロを構成する様々な要素について考える。 ・各要素について学習カードに書き込みながら鑑賞する。 ・学習カードに書き込んだことを発表し合う。 ・知覚した要素に着目して再度鑑賞する。	1 本時の目標と学習の流れを説明する。 2 下記の事項について理解させる。 ・ラベルの出生地、その他の作品等について ・ボレロ作曲の経緯について（バレエ用に依頼されて作曲された事を中心に理解させる。） 3 以下の要素をＤＶＤで鑑賞させながら知覚させる。 1）旋律とその反復……二つの旋律を中心に構成されていて、反復されている。 2）音色の変化・反復……二つの旋律が、多様な楽器によって次々に演奏されている。 3）リズムと反復……終始同じリズムが反復されている。 4）音量の変化……演奏が進むにつれ、演奏楽器の数が増え最後は全員奏になり、音量が増していく。	2 楽曲の文化的・歴史的背景などに興味・関心を持っている 3 音楽を形作っている要素や要素同士の関わりについて知覚している。
第2時	1 本時の目標の理解 2 前時の復習 ・学習カードを基にボレロを形作る特徴的な要素について確認する。 3 ボレロを形作る各要素が醸し出す演奏効果について考える。 ・鑑賞したことを学習カードに記入し発表し合う。 ・再度鑑賞し、学習カードを再検討する。 4 ボレロの魅力について他への紹介文を書く。 ・学習カードを基に紹介文を書く。 ・紹介文を発表し合い、再度鑑賞し、紹介文を再検討し完成させる。	1 本時の目標と学習の流れを説明する。 2 第１時に知覚させた内容について、ＤＶＤを鑑賞させながら板書をして確認させる。 3 特に下記の点について注目させる。 1）音色・音量の変化 二つのメロディーが、木管楽器のソロから始まり、弦楽器や管楽器が加わる事による音色や音量の変化による効果や曲独特の雰囲気について感受させ、言語化させる。 2）リズムの反復 リズムパターンが 延々と繰り返されることの効果について感受させ、言語化させる。 3）バレエとの関わりから、1）2）の効果について考えさせ、言語化させる。 4 下記の視点を盛り込んで書くように指導する。 1）ボレロの魅力、独特な良さ、味わいなどについて、他人に伝わるような文書にする。 2）曲の独特な雰囲気や魅力を自分なりに文書に盛り込む。(感受する。) 3）2）について、なぜそのように感じるのかを、学習カードで考えた音楽の構造から考えて文書にする。(感受した内容の根拠を知覚した構造に求める……知覚と感受を一体化する。)	2 音楽を形作っている要素や要素同士の関わりについて知覚しているか。 3 音楽を形作っている要素や要素同士の関わりについて知覚するとともに、それらの働きを感受しているか。 作曲された背景や作曲者の意図を汲み取りながら、曲の特徴について理解しているか。 4 曲の特質やよさについて、感受した内容と、その根拠としての知覚された構造との関わりから文章化しているか。

生徒の紹介文例①・・・・・・評価Ａの例

ボレロは、曲の最初から最後まで同じリズムが繰り返されていますが、そのリズムは割と単純で、軽快なバレエの踊りが目に浮かぶようです。また、割と単純で親しみやすい２つのメロディーが交互に出てきて、何度も繰り返されますが、聴いていても決して退屈しません。それは、そのメロディーがいろいろな楽器のソロで演奏されたり、いくつかの楽器で同時に演奏されるなどして、メロディーは同じでも、いろいろな響きが楽しめるからだと思います。また、曲の最初は小さい音で始まりますが、少しずつ演奏する楽器も増え、最後には全員が強い音で演奏するので、迫力満点です。少人数の静かな踊りが、最後には大人数の激しい踊りになっていくようなバレエを感じさせます。

感受した曲の特質や雰囲気とその根拠となる知覚された構造を関連させて言語化している。

生徒の紹介文の例②・・・・・・評価Ｃの例

この曲は、すごく激しい曲で、迫力もあって僕はとても好きです。特に好きなところは、いろいろな楽器が出てくるところや、いろいろなメロディーが出てくるところです。バレエに付ける音楽ですが、とてもバレエに合っていると思います。

特徴的な構造は知覚しているが、十分ではなく、曲の特質や雰囲気の感受が乏しい。また、感受した内容と、知覚した構造との関連がないために、根拠が乏しく、単なる感想文になっている。【指導の手だて】
学習カードに立ち返り、曲の構造を見直させるとともに、それがどのような雰囲気を醸し出しているのかについて比喩的な言葉で表せるよう、例示をしながら指導する。

3　美術の指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成

「美術Ⅰ」の指導計画の作成に当たっては、「美術文化についての理解を深める」が新たに目標に加えられたことを踏まえ、美術文化を尊重する態度を養うようにする必要がある。

また、「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」ため、表現と鑑賞の活動を通して美術の楽しさや創造の喜びを味わうとともに、日常生活の中で主体的に表現したり鑑賞したりし、生涯を通じて美術を愛好していく心情を育てていくことも重要である。

(2) 内容の取扱い

ア　「美術Ⅰ」の「A表現」の「(1) 絵画・彫刻」については、生徒の特性、地域や学校の実態を考慮し、絵画と彫刻のいずれかを選択したり一体的に扱ったりすることができる。また、「(2) デザイン」と「(3) 映像メディア表現」については、(3)に「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」と、「目的や機能などを考えた表現」の両方が位置付けられたことを踏まえて、「A表現」においてこの２つの表現の調和を図るため、(3)において「目的や機能などを考えた表現」を取り扱う場合、(2)といずれか一方を選択して扱うなど、工夫することが必要である。

イ　「美術Ⅰ」の「A表現」の指導に当たっては、スケッチやデッサンなどより、観察力、思考力、描写力などが十分高まるよう配慮する必要がある。スケッチやデッサンは、それぞれが表現の喜びを味わうものであるとともに、表現の発想や構想の場面から、完成作品の発表や展示までのあらゆる場面で必要な学習でもあることから、そのねらいを明確にし、表現の能力を育成するために効果的に取り入れることが大切である。

ウ　「美術Ⅰ」の「B鑑賞」の指導に当たっては、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、見方や感じ方を広げ、作品に対する理解を深めるため、生徒が個性を尊重し合いながら、美術作品やお互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、見方や感じ方を広げ、作品に対する理解を深めるようにしていく必要がある。また、内容については、日本の美術を重視して扱うとともに、アジアの美術などについても扱うようにする必要がある。

エ　生徒が創意工夫を重ねて生み出した作品を尊重し合う態度を育成する指導の中で、著作権などの知的財産権に触れ、作者の権利を尊重し、侵害しないことについても併せて指導する必要がある。

(3) 「美術Ⅰ」の指導計画（例）

学期	月	時数	単元（項目）	指導内容	指導のねらい	評価の観点			
						※①	※②	※③	※④
前	4	4	オリエンテーション 鑑賞　東洋と西洋	・美術の目標と指導内容 ・風土と美術作品の相違	・授業への参加意欲を高める ・作品に与えた影響を知る	○			○
	5	9	表現　絵画 鉛筆デッサン	・道具の使用方法 ・効果的な表現	・道具の使用法、技法の理解 ・観察を通じての空間の把握	○	○	○	
	6	2	鑑賞　合評会①	・合同批評会の開催	・他人の意見を基にした考えの整理	○			○

期	7	9	表現　絵画 静物着彩	・道具の使用方法 ・効果的な表現	・道具の使用法、技法の理解 ・色彩と空間表現の関連を知る	○	○	○	
	8	2	鑑賞　合評会②	・合同批評会の開催	・他人の意見を基にした考えの整理	○			○
	9	9	表現　デザイン ロゴマーク	・ロゴマークの意味 ・機能性のあるデザイン	・社会における存在意義の理解 ・自分らしさを表現する	○	○	○	
		1	鑑賞　合評会③	・合同批評会の開催	・他人の意見を基にした考えの整理		○		○
後期	10	8	鑑賞　現代美術	・作家、作品の研究	・調査研究を基に発表会を開催	○	○	○	○
	11	8	表現　彫刻 抽象彫刻	・素材の特徴、技法 ・自由な発想	・素材と道具、技法の理解 ・公共空間における役割を知る	○	○	○	
		1	鑑賞　合評会④	・合同批評会の開催	・他人の意見を基にした考えの整理	○			○
	12 1	8	表現　絵画 銅版画	・様々な版画と技法 ・空想画の表現	・身の周りの印刷物の技法を知る ・効果的な技法の理解	○	○	○	
		1	鑑賞　合評会⑤	・合同批評会の開催	・他人の意見を基にした考えの整理	○			○
	2	6	表現　映像メディア 写真表現	・ピンホールカメラ ・構造と表現技法	・構造、技法の理解 ・偶然性と必然性の理解	○	○	○	
	3	2	鑑賞　合評会⑥ 美術Ⅰのまとめ	・合同批評会の開催 ・反省、自己評価	・他人の意見を基にした考えの整理 ・今後の創作活動に向けて	○ ○			○

※①関心・意欲・態度　※②芸術的な感受や表現の工夫　※③創造的な表現の技術　※④鑑賞の能力

(4) 言語活動を充実する学習指導の実践例

ア　題　材　名　　「『現代美術』を調べてみよう」（グループによる演習）

イ　学年・科目　　第１学年・美術Ⅰ

ウ　題材の概要

１クラスを６から８程度のグループに分け、グループごとに１つの現代美術の作品とその作者などについて共同で調査を行う。結果をイラストボードにまとめ、単元最後の授業時に全体の前で発表する。発表では作品の感想についても述べるものとし、発表後、質問や意見を出し合うことで、全体として作品の見方や感じ方を深めさせる。

エ　指導の流れ

時　数	学　習　活　動	指導上の留意事項	評価方法
1	・題材全体の説明 ・「現代美術」を知る	・概要の説明、グループ分け ・現代美術の定義について説明する	
5	・選択した作品の調査、イラストボードの制作 ・発表の手順の確認、練習	・役割分担、調査項目について ・発表の仕方について	
2	・発表会（プレゼンテーション） ・反省、評価	・評価シート（アンケート） ・全体を通しての感想の出し合い	・発表の仕方 ・評価シート集約

4　工芸の指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成

指導計画の作成に当たっては、「工芸の伝統と文化についての理解を深める」が新たに目標に加えられたことを踏まえ、工芸が社会をより楽しく快適で心豊かなものにする力をもっていることを認識させるとともに、工芸の伝統と文化を尊重する態度を養うよう留意することが必要である。

また、「生涯にわたり工芸を愛好する心情を育てる」ため、表現と鑑賞の学習を通して工芸の楽しさや創造の喜びを味わうとともに、日常生活の中で主体的に表現したりし、生涯を通じて工芸を愛好していく心情を育てていくことも重要である。

(2) 内容の取扱い

ア　「工芸Ⅰ」の「Ａ表現」の指導に当たっては、地域や学校の実態を踏まえ、地域特産の材料を活用したり、地域の伝統的な工芸に見られる表現技法や意匠など、受け継がれてきた工芸の表現を制作に取り入れたりすることにも配慮する必要がある。

イ　「工芸Ⅰ」の「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、生徒が個性を尊重し合いながら、工芸作品やお互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、作品の見方や感じ方を広げ、作品に対する理解を深めるようにしていく必要がある。また、内容については日本の工芸を重視して扱うとともに、アジアの工芸などについても扱うようにする必要がある。

ウ　生徒が創意工夫を重ねて生み出した作品を尊重し合う態度を育成する指導の中で、著作権などの知的財産権に触れ、作者の権利を尊重し、侵害しないことについても併せて指導する必要がある。

(3) 「工芸Ⅰ」の指導計画（例）

学期	月	時数	単元（項目）	指導内容	指導のねらい	評価の観点 ※①	※②	※③	※④
前期	4	4	オリエンテーション 鑑賞　日本の陶芸	・工芸の目標と指導内容 ・我が国の陶芸の歴史	・授業への参加意欲を高める ・これまでの歴史を知る	○			○
	5 6	15	表現　陶芸 器の制作	・素材の特性、スケッチ ・成形技法、施釉、焼成	・道具の使用法、技法の理解	○	○	○	
	7	2	鑑賞　合評会①	・合同批評会の開催	・他人の意見を基にした考えの整理	○			○
	8 9	12	表現　プロダクト デザイン	・問題点の発見、検討 ・解決策の案出	・商品開発の過程を体験する	○	○	○	
		2	鑑賞　合評会②	・合同批評会の開催	・他人の意見を基にした考えの整理	○			○
後期	10	2	鑑賞　社会と工芸	・社会における役割	・「用」と「美」について				○
	11	15	表現　木材工芸 笛の制作	・素材の特性、技法 ・音の鳴る構造	・素材と道具、技法の理解 ・独創的な形体の追求	○	○	○	
	12	2	鑑賞　合評会③	・合同批評会の開催	・他人の意見を基にした考えの整理	○			○
	1 2	14	表現　金属工芸 ペーパーナイフ	・素材の特性、技法 ・機能的な形状	・素材と道具、技法の理解 ・使いやすさと見た目の美しさ	○	○	○	
	3	2	鑑賞　合評会④ 工芸Ⅰのまとめ	・合同批評会の開催 ・反省、自己評価	・他人の意見を基にした考えの整理 ・今後の創作活動に向けて	○ ○			○

※①関心・意欲・態度　※②芸術的な感受や表現の工夫　※③創造的な表現の技術　※④鑑賞の能力

(4) 言語活動を充実する学習指導の実践例

ア　題　材　名　　「身の周りの新しい『道具』を創造しよう」（プロダクト演習）

イ　学年・科目　　第１学年・工芸Ⅰ

ウ　題材の概要

生活の中で不便と感じている問題点をあげさせ、身の周りの様々な機能を持った道具を参考にしながら、その問題を解決するような「道具」を自分なりにデザインし、イラストボードにイラストレーションで機能面も併せて表現させる。それを用い、単元の最後の授業で全体に発表（プレゼンテーション）させ、批評し合う。

エ　指導の流れ

時　数	学　習　活　動	指導上の留意事項	評価方法
2	・題材全体の説明	・概要の説明	
１０	・問題点の発見、解決策の案出 ・イラストボードの制作	・解決案の具現化 ・効果的なレイアウトの工夫	・着眼点 ・発想、まとめ方
2	・発表会（プレゼンテーション）	・全体を通しての感想の出し合い	・発表の仕方

5　書道の指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成

指導計画の作成に当たっては、書の文化に関する学習の充実を図るとともに、豊かな情操を養い、感性や想像力を働かせながら考えたり判断したりするなどの資質や能力の育成を図るようにし、また、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評したりするなどして、自分なりの意味や価値を作り出していくような鑑賞の指導を重視する。

(2) 内容の取扱い

ア　「書道Ⅰ」は、書の表現と鑑賞についての幅広い活動を展開し、芸術としての書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすことなどをねらいとしている。「書道Ⅱ」は、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばすことなど、「書道Ⅲ」は、個性豊かな書の能力を高めることなどをねらいとしている。

イ　「書道Ⅰ」においては、総合的に書に対する理解を深めるため、「Ａ表現」の三つの分野を全てを扱うこととなった。また、「(2)漢字の書」では、楷書、行書、草書、隷書及び篆書の五書体を扱うことが可能になったが、基礎的な楷書及び行書の学習を充実させることが大切である。

ウ　「書道Ⅰ」の「Ａ表現」の指導では、適宜「Ｂ鑑賞」の指導事項を注意深く関連させながら展開させていくことが大切である。「Ｂ鑑賞」の指導において、「Ａ表現」を関連させることも同様である。

エ　「書道Ⅰ」においては、書道の幅広い活動を通して、生徒一人一人が書道の学習によって身に付けた能力を主体的に生活に生かすとともに、地域社会の人材の協力を求めたり、美術館での鑑賞学習を取り入れたりして、多様な学習活動が展開できるように配慮すること。

オ　「書道Ⅰ」の「Ｂ鑑賞」の指導では、感性を高め、探求心の向上を図ることが大切である。自身の作品や他人の作品の鑑賞に当たっても、表現の意図について発表したり、互いに批評し合ったりする活動を取り入れることによって、作品や他人をより理解することにつながる。

カ　生徒一人一人が創意工夫を重ねて生み出した作品にはかけがえのない価値があり、それらを尊重し合う態度を育成することが重要である。その指導の中で、著作権などの知的財産権などにも触れ、作者の権利を尊重し、侵害しないことについての指導も必要である。

(3) 「書道Ⅰ」の指導計画(例)

月	時数	単　元	指導内容	指導のねらい	評価の観点			
					※①	※②	※③	※④
4	2	漢字仮名交じりの書①	オリエンテーション	書道と書写の違いを理解させる。 書道の目標を理解させる。	○			
	2		漢字とひらがなの調和	筆の機能の理解させる。 線の太細、遅速に留意して書かせる。		○	○	○

	2		生活の中の書	中学校の先生に手紙を書くことで、整斉美の大切さを気付かせる。		○		○
5 6	8	漢字の書	漢字の書体の変遷 篆書・篆刻について	五書体を理解させる。 姓名印を作ることにより作品に愛着を持たせ、さらに立体作品の魅力に触れさせる。	○	○	○	○
7 8	20		用具用材について 古典の背景について 〈楷書の学習〉 「牛橛造像記」「建中告身帖」 〈行書の学習〉 「蘭亭序」「争坐位稿」 上記４つの古典の中から一つを選び、学習を深める	時代背景や作者像などを調べさせ、実技に興味を持たせる。 力強く逞しい楷書と、流動的で情意の激しさを表出させた行書のそれぞれの特徴を理解させる。	○	○	○	○
9	4		隷書の学習	身の回りの装飾性のある隷書体を探し、視覚に訴えることのできる書体であることを理解させる。	○	○	○	○
10	4		これまでの古典を生かした創作と鑑賞	校訓を倣書させる。	○	○	○	○
11	10	仮名の書	仮名の成立 運筆法の学習 単体連綿の学習 「蓬莱切」の臨書	草仮名により草書にも触れさせる。 散らし書きの効果についても理解させる。	○	○	○	○
12	8	漢字仮名交じりの書②	漢字と仮名の調和について 字形、文字の大きさ、潤渇、濃淡、線質、文字群、余白、全体構成について	名筆を鑑賞させることにより、漢字仮名交じりの技術を理解させる。	○	○	○	○
1 2	4		意図に基づく表現① 自作の文言 テーマ学習	言葉の選定に関して適宜助言をする。 小グループでテーマを決めたり、制作過程において言葉と表現について批評し合う。	○	○	○	○
3	6		意図に基づく表現② 鑑賞	部屋に飾る言葉を前提に作品制作する。 裏打ちし、パネルに張って作品鑑賞会をする。	○	○	○	○

※①書への関心･意欲･態度　②書表現の構想と工夫　③創造的な書表現の技能　④鑑賞の能力

(4) 言語活動を充実する学習指導の実践例

科目名　書道Ⅰ	単元名　漢字の書（テーマ　魂）
目　標（１）「魂」を用い、創意あふれた作品を半紙に仕上げる。 （２）自分や他者の作品について、作品意図を説明し相手に伝えることで創作作品の理解を深める。	
展　開 《一斉授業》 １　資料１（上田桑鳩著「書道入門創作編」　創元社　Ｐ１０８・１０９）の６種の「魂」から第一印象で自分の好みの作品を選ぶ。（創作作品との出会い） ２　好みが分かれることを知る。（個性の尊重）	

3　創作は自己の内面からの表出であるので、個性は大切だが、個人の独善的な表現とは違うことを理解させる。（作品に対する説明の意義）
4　課題１　「魂」を書く→「象」を感じるように工夫して、作品を仕上げる。（作品１）
5　課題２　「魂」を書く→「台風」を感じるように工夫して、作品を仕上げる。（作品２）

《ペア学習》
6　二人ペアになり、相手の作品２枚のうちどちらが「象の魂」の作品かを当てあう。（作品説明をしなくては難しいことを理解する。）
7　お互いに自分の作品を説明し合うことで、相手の作品の意図を理解する。（言葉による説明の重要性）
8　説明に説得力があり、作品と最も合致するものを合議によりペア内で１点決める。（深い考えに共感し、独善的な作品の排除）

《一斉授業》
9　ペアで決めた１点を全体の生徒に提示しながら作品意図を説明する。（心に訴える作品を全体で共有、多様な表現の理解）
　合議で選ばれた生徒……Ａ
　合議で選ばれなかった生徒……Ｂ
Ａの生徒が自分の作品を持ち、Ｂの生徒が自分の感想も交えながら、Ａの生徒の作品を説明する。（相手の作品を評価するときの語彙力の養成）

評　価　（１）授業を楽しみながら作品制作に取り組めたか。
（２）創意溢れる作品を仕上げられたか。
（３）作品についての説明を的確に表現して伝えることが出来たか。
（４）お互いの作品を尊重する心を持てたか。

資料１

Topic 実践例：「多角的な芸術活動の取組」

Ａ高校では、「芸術の日」を設定し、芸術の授業や文化系部活動の取組を展示・発表するとともに、「芸術鑑賞」を実施しています。芸術の授業において、芸術鑑賞と関連付けて事前学習を行い、芸術鑑賞で鑑賞する作品に対する興味・関心を高めるとともに、芸術の授業の成果を発表することにより、生徒の個性豊かな表現の能力を伸ばしたり、他の生徒の作品などを鑑賞することにより、生徒の主体的な鑑賞の能力を伸ばしました。

＜構成＞

		教科・科目	特別活動、部活動
芸術の日	鑑賞	・音楽Ｉの発表	・芸術鑑賞 ・吹奏楽局の発表 ・合唱部の発表
	校外展	・美術Ｉの作品 ・書道Ｉの作品	・書道部の作品展示

＜事前学習＞

芸術の授業において、芸術鑑賞に関連した学習を実施した。

・音楽Ｉ　芸術鑑賞で鑑賞する作品で使われている音楽を題材した学習を実施する。

・美術Ｉ　芸術鑑賞で鑑賞する作品から受けるイメージを基にして、小道具及び舞台装置の模型を製作した。

＜当日＞

◇鑑賞

（日時）11月○日（木）　13:15～16:00

（内容）音楽選択者の発表

吹奏楽局

合唱部による成果発表

映画「オペラ座の怪人」

◇校外展

（日時）11月○日（土）　10:00～16:00

11月○日（日）　10:00～16:00

（内容）美術選択者の作品展示および鑑賞

書道部の作品展示および鑑賞